

平成29年度第5回花巻市行政評価委員会（暮らし部会）会議録

1 開催日時

平成29年7月14日（金） 午前10時～正午

2 開催場所

花巻市役所3階 小会議室

3 出席者

(1) 委員 4名

鈴木部会長、高橋委員、吉田委員、福盛田委員（※木村委員は欠席）

(2) 説明者（施策主管課） 1名

佐藤長寿福祉課長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 2名

秘書政策課：赤坂企画調整係長

財政課：八重樫課長補佐兼経営財務係長

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「高齢者福祉の充実」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

福盛田委員：高齢者在宅生活支援事業の成果指標「在宅高齢者生活支援事業利用者数」について、事務事業評価シートの「成果指標の達成度の要因分析」において、日常生活用具給付については見込みを29人としているが、実績は2人。実績と見込みに開きがあるが、どのようなものを給付しているのか？

佐藤課長：自動消火器、電磁調理器の給付、老人用電話の貸与を行っている。

福盛田委員：それらはいつか回収するのか？

佐藤課長：渡してしまうもの。給付である。

鈴木委員：高齢者福祉サービス基盤整備事業のうち、施設整備については着工が遅れたようだが、理由は何か？

佐藤課長：手続きに時間を要したもの。

吉田委員：施設整備は前もって計画されているものだと思うが・・・

八重樫課長補佐：予算の繰越を行うにあたり聞き取りした内容だが、用地測量や関係

機関との協議に時間を要したと聞いている。

吉田委員：施策評価シートに記載の成果指標「高齢者が必要な時に必要なサービスを受けていると感じる市民の割合」について、平成 27 年度から割合がアップした要因を「平成 29 年度から始まる介護予防・日常生活支援総合事業の説明会を市内全域で開催したから」と分析しているが、そうなのか？

佐藤課長：要因の一つだと考えている。

吉田委員：説明会を行ったからというより、高齢者はもともと関心があるはず。一方、若い人たちは、身近に高齢者がいる人といない人で感じ方が違うのではないか。判断が難しい。

吉田委員：老人クラブが単位数、会員数とも減少傾向とのことだが、減少傾向をそのままにしていいのかと思う。役員を引き受ける方の不足や趣味の多様化等いろいろな要因があると思うが、老人クラブがなくなることで、各種弊害があると思う。減少することを見過ごしてはだめだという発想を持っておくべきではないか？

福盛田委員：老人クラブ行事に参加したくても交通手段がない等の要因もあるようだ。

高橋委員：老人クラブになる前の組織（青年会・壮年会）が少なくなっている。全て自治会任せでは地域が回らなくなっている。

吉田委員：少子化で子供会も少なくなっている。現在ある老人クラブの活性化が必要。

鈴木委員：様々な統計等によると、高齢男性で生きがい（趣味）を持っている人の割合は同年代の女性に比べ、かなり低い数値となっている。

福盛田委員：高齢者福祉サービス基盤整備事業で実施している介護ロボット等導入支援事業について、これはどのぐらいの補助率なのか？

佐藤課長：927 千円を補助の上限としている。

福盛田委員：介護ロボットを導入する事業所は多いのか？

佐藤課長：平成 28 年度は 5 事業所が導入した。

高橋委員：介護現場での離職理由に「腰を痛めた」というものが多い。介護者を確保できず、慢性的な超過勤務傾向となっている。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シート】

◇①施策を構成する事務事業の評価・検証について

- 「施策を構成する事務事業一覧」の「施策への貢献度」の評価は的確である。
- （高齢者社会参加活動支援事業）老人クラブ会員数だけで成果を図るのは難しくなっているのではないか。多角的に評価できる指標を設定しても良いのでは

ないか。

→ 老人クラブ以外の高齢者の活動団体の活動状況も把握してはどうか？

→ 老人クラブ会員のニーズの把握等について取り組んでみてはどうか？

◇②施策の成果指標及び達成状況の分析について

→ 老人クラブの数だけでは適切に分析できない部分があると思う。社会等その他の要因も見ながら分析すべき。

◇③施策の総合的な評価について

→ 高齢者の生きがい、ライフスタイルの意味をもっとはっきりと記載すべき。

→ 課題の部分には「ライフスタイルの多様化」は記載不要ではないか。

◇④シート記載内容について

→ 問題なし。ただ、事務事業名はもう少し分かりやすいものであればなお良い。